



こんにちは!
かさもと俊也です!

AMR「アート・マーケット・ルネッサ」
(若者の新しい文化創造事業)
(3月:ルネッサながとにてアート出展者の田島さん・中野さんと)

こんにちは!かさもと俊也です!県政レポート
[vol.12] 2017年3月30日発行

かさもと俊也の \元気ハツラツ写真レポート! /

- 10月 ▲ 県議会決算特別委員会
委員の一人として27年度一般会計ほか諸決算、電気・工業用水道事業等の企業会計決算を審査。
- 10月 ▲ 長門市婦人レクリエーション大会
日々で家族を支えられながら各地域イベントでも活躍の連合婦人会の皆様と共にスポーツで元気創出!
- 11月 ▲ ものづくりフェスタ2016
伝統技能・熟練技能、そして新たな技能まで山口の様々な業界の「技」を未来に繋ぐ。
- 11月 ▲ 三隅滝坂神楽舞
後継者不足の中、伝統芸能の継承に尽力する皆様と、多様な地元文化をまちづくりに活かせるよう応援。
- 11月 ▲ JAXA宇宙センター他視察
政府関係機関の地方への機能移転により宇部市に開設されたJAXA筑波宇宙センターを議員団で視察。
- 11月 ▲ 長門農山漁村女性の集い
女性の方で食のモノづくり分野活性化を。各団体の食のメニューを実販売に繋げることが出来る様応援。
- 11月 ▲ 長州ながと和牛を食する会
肉の差別化・コストダウンを目的に新たな手法で育成した黒毛和牛。量産に向け試食会で共有を。
- 11月 ▲ 木屋川の水を守る森づくり交流会
下流域水企業と上流域の里山とが用水源の恩恵に感謝し交流。将来に渡り里山を守るファンづくりを。
- 11月 ▲ 韓国旅行社ハートヒーリングツアー社訪長
山口・長門のインバウンド観光客増へ、「いいね!やまぐちアンパサダー」の長門市出身宮本氏も応援。
- 12月 ▲ 長門明社で福祉施設清掃
市内にある福祉施設の皆様が元気に気持ちよく新年をお迎え出来る様、会の有志で施設周辺を清掃。
- 1月 ▲ 長門商工会議所新年互礼会
時代に合った長門の地域づくりが進む中、地域経済の牽引役「商工会議所」の果たす役割に期待。
- 1月 ▲ 仙崎地方卸売市場初セリ式
道の駅直売所のオープンを漁業者や仲買業者の皆様自身の新しい販売拡大策に繋げていけるよう応援。
- 1月 ▲ 長門市消防出初式
防滅災の最前線を担う団員の皆様を激励。未たる災害への対応・訓練と共に予防・抑止にも注力。
- 2月 ▲ 通定置漁業組合視察
江島深参議院議員と仙崎市場の水揚げにも大きく貢献する定置網事業の経営について意見交換。
- 2月 ▲ 工房ひまわり視察
下関市吉見地区で地元産品を活用した商品開発を行なう女性企業とモノづくりや販路開拓について意見交換。
- 2月 ▲ 大浦地区赤線(生活道)対策
住民の皆様暮らしに欠かせない生活道の補修を地元の協力をもとに実施。共助と公助の連携を。
- 3月 ▲ 地方創生推進特別委員会
今2月定例会にて報告書提出。約一年半の審議に基づく政策提言の具現化に向け、引き続き注力。
- 3月 ▲ 三隅憩いの森周辺の要望活動
昨年より地の再整備にボランティアで尽力された三隅を守る会の皆様と共に、市・県関係者への現地要望に同行。

こんにちは。かさもと俊也です。皆様方には、日々様々な場でお世話になっており、心から感謝申し上げます。

私は、県議会2月定例会において、自身9回目となる一般質問を行いました。今回は特に、「デフレ脱却を加速化する国の財政出動と合わせ、本県ならではの資源を活かし、更に経済力・産業力を高め、県民の暮らし全般を充実させていくため、県として今できる、実効ある未来の基盤づくりに向けた投資に重点を当てております。10月末からの活動と併せ、その内容をご報告いたします。

村岡知事は、今回の平成29年度当初予算編成に当たり、活力あふれる県づくりに支える行財政基盤の確立に向け、財政健全化に向けた行財政構造改革に取り組み、5年後を目途に、基金の取り崩しに依存しない自立・安定した財政構造の確立を図ることとされましたが、今後も社会保障費、インフラ維持費の増大や、地方交付税の減少等が見込まれ、平成33年度までの期間に見込まれる財源不足は、1350億円にのぼるとの収支見通しであり、その改革には大変な困難が予想されます。

山口県ならではの「未来への投資」を!

将来を見据えた計画的な歳出削減はもとより、未来への実効ある投資により、県民の消費増や産業界の利益創出に直結し、ひいては県の歳入確保が図られるよう、諸施策の展開をしっかりと注視していかなければなりません。

治国の要道は、「入るを量って出ざるを制す」と言われますが、私は地方創生とはまさに、そのままにしておくと縮小を余儀なくされる「入る」を、今後とも持続的に量っていきけるよう、「入る」を新たに生み出していくことと考えます。

私は、本県産業はもとより、中山間地域など著しく縮小しつつある社会においても、デフレからの脱却に向け、公が果たすべき真の役割を訴え、提言を重ねてまいります。

今後とも、皆様方の声を県政に届け、ご負担いただいた重責を全うしてまいりますので、引き続きご指導、ご鞭撻をいただきますようお願いいたします。

山口県議会議員
かさもと俊也

こんにちは!かさもと俊也です!県政レポート
[vol.12] 2017年3月30日発行
発行:かさもと俊也事務所
住所 〒759-4101 長門市東深川 2542-3 レインボービル1階
TEL 0837-22-5226
FAX 0837-27-0106
EMAIL kasamototoshiya@gmail.com

県政に対する皆様のご意見・ご要望をお寄せください!

県政報告会・対話集会
県政レポートVol.11に報告した71回目以降をまとめております。皆様からいただいたご意見・ご要望は関係機関に対応を申し入れています。

72 鳥越地区 11月14日(月)
73 湯本地区 11月23日(水)
74 白湯地区 1月23日(月)
75 伊上地区 1月31日(火)

山口県議会2月定例会 笠本俊也一般質問要約

県議会の録画中継は
下記からご覧いただけます
<http://bit.ly/1dhFZPB>

質問① 水産インフラ 輸出構想

県は昨秋、造船業、建設業、水産加工業といった水産関連企業の集積がある本県の強みをパッケージとして、ベトナムなど東南アジアに輸出する構想を具体化するため、水産インフラ輸出構想研究会を立ち上げたが、本県独自の産業戦略とも言える同構想の具体化に向け、今後どのように取り組むのか。

答弁 村岡知事

同構想の具体化には、現地政府等との信頼関係を構築し、相手国におけるインフラ投資の動向等を注視しつつ、プロジェクトの実現可能性を精査することが不可欠。そこで昨年末、ベトナム南部をターゲットに訪問団を派遣するとともに、本年5月には視察団を迎え、信頼関係を一層深めていく。これを踏まえ、現地における水産物市場の成長性など事業環境について、国による調査事業の実施を要望しているところ。同構想を山口県発の先駆的モデルとして積極的に推進し、本県産業界の強化につなげていく。

俊也の目！

3 個体数等の管理

県では、今後5年間を見通す新たな鳥獣保護管理に係る計画の策定作業が大詰めを迎えているが、現場では、現計画における生息数や生息域が、実態とかけ離れていると声がある。次期計画の策定に当たり、サル、シカ、イノシシについて、どのように生息状況を把握し、また、今後、鳥獣の管理にどのように取り組むのか。

答弁 秋貞環境生活部長

次期計画の策定に当たっては、猟友会や地域住民からの情報収集や専門家による生息調査を実施することにより、推計の精度を上げ、管理目標を設定する。サルについては、群れごとに加害の状況を特定したところであり、シカについては、年間捕獲の目安を決め、下関・長門全域でのくくりわな設置の制限緩和やメスジカを効果的に捕獲するくくりわなの導入を図る。イノシシについては、年間捕獲目標を2万頭以上とし、新たに休猟区を縮小するなど、狩猟の強化を図る。そのため、狩猟免許の取得費用を助成するほか、狩猟者に対する技能講習会を開催するなど、担い手の確保・育成に努める。

俊也の目！

シカの生息域が拡大しています。毎年度狩猟現場の意見を聞くほか、生息調査を実施し、捕獲効果を検証することです。また、鳥獣全般にわたり厳格な頭数管理がなされ、そのもとでも最も効果的な対策を講じられるよう、計画進行を見守ってまいります。

質問② 観光インフラの整備

1 市町が進める観光インフラの整備

元乃隅稲成神社では、近隣道での渋滞発生のほか、駐車場やトイレが少ないといった不満の声があり、市は駐車場整備を始めた。湯本地区では、星野リゾートの進出と合わせ、官民一体となった温泉地の再生に取り組んでいる。こうした市町が進める観光インフラの整備について、県としてどのように支援していくのか。

答弁 小玉観光スポーツ文化部長

県としては、国の支援制度も有効に活用しながら、市町との適切な役割分担のもと、緊密に連携して取り組む。元乃隅稲成神社については、車両の離合が可能となるよう県道の拡幅工事を進め、長門市が総力を挙げて取り組む湯本温泉の再生に向けては、音信川の魅力を高めるための河川整備を進める。こうした取組に加え、平成29年度予算においては、新たに「ツーリズム振興補助金」を創設し、観光案内施設の改修など、市町が行う観光インフラの整備を支援していく。

4 ジビエの振興

県では、捕獲したイノシシやシカの肉を食材として安全に確保・流通させる努力を重ねてこられたが、捕獲数に対し、ジビエとして活用される量は10%にとどまる。捕獲から料理まで関係する事業者の連携体制構築が、何より効果的な鳥獣被害対策につながるかと考えるが、県は今後、ジビエの振興にどのように取り組むのか。

答弁 河村農林水産部長

昨年12月の法律改正により、捕獲した鳥獣のジビエとしての利活用が明記されたことから、県としても今後、長門市の農産物とジビエを活用したレトルトカレーのブランド化の事例をモデルに、市町や猟友会、農業者、飲食店など幅広い事業者が連携し、捕獲鳥獣の適切な処理や有効利用に向けた取組が拡大するよう必要な指導・助言や情報提供を行っていく。更にこの連携体制のもと、地域におけるジビエ利用の取組が進むよう、国の交付金を活用した処理施設の整備や、県独自の支援制度による新商品開発、販路開拓に努める。

質問④ 水産業の振興に向けた沿岸海域の資源回復

シビエ振興には、捕獲（川上）から料理（川下）に至る関係事業者の連携体制構築が何より重要。ジビエが鳥獣被害対策の一翼を担い、捕獲意欲の高揚にとどまらず、新たな産品の創出にもつながるよう、示された果実策の有効活用に向け、まずは関係事業者の意思統一に努めてまいります。



俊也の目！

2 二次交通アクセスの充実

観光客の誘致拡大には、観光周遊バスの運行に加え、関係市町や関係機関と一体となった観光客の移動手段等の実態検証が重要。特に県北部地域は、宿泊者も多く、県の玄関口をつなぐ二次交通体系の強化など、有効なアクセス構築に向けた取組を進めていく必要がある。二次交通アクセスの充実に県はどのように取り組むのか。

答弁 小玉観光スポーツ文化部長

県では、観光周遊バス「おいでませ山口号」の運行支援に加え、湯本温泉旅館協同組合による新山口駅からの無料送迎バスなど、県内各地で主体的に取り組まれている二次交通対策の情報を積極的に発信しているところ。今秋のデスティネーション会議では、観光周遊バスにより日本海沿岸ではまだ回復していない。キジハタなどの稚魚放流も、生育するための藻場や漁礁があつてこそ、その効果が高まる。日本海沿岸海域の水産業振興に向け、資源回復のための漁場整備に、今後どのように取り組むのか。

答弁 河村農林水産部長

この10年間で4割以上減少した日本海側の漁業生産量を増大させるためにも、漁場整備の推進による水産資源の回復に向けた取組は大変重要。そのため平成29年度、日本海沿岸4市町を計画区域とする新たな漁場整備に着手し、長門市の4地先で藻場造成を行う。藻の発生を促す増殖礁とその周辺に藻を着生させる自然石を設置する。加えて、他の3市町の8地先でキジハタ等を対象とした漁礁設置にも取り組む。県としては今後とも、漁業者や地元市町と連携し、水産資源の回復や漁業生産量の増大に向けて計画的な漁場整備を推進していく。

俊也の目！

5 今後の住宅施策の展開

本年度から長門市4地先で藻場造成が始まるなど、計画的な整備が進むこととなり。水揚基礎づくりは海中環境改善や漁獲量アップに必ずや反映します。こうした水産インフラの整備に地元業者が活用されるよう、整備の成り行きを注視してまいります。

質問⑥ 山陰道の建設促進と周辺ネットワークの構築



俊也の目！

1 取組体制づくり

農山村で農林業を営む高齢者にとって、野生鳥獣による作物被害は今後の生活を脅かす重大な問題。猟友会や農林業者の意見を反映した迅速かつ柔軟な対応ができるよう、地域全体で被害対策に取り組む体制整備が何より急務と考えられているが、いかがか。

答弁 河村農林水産部長

鳥獣被害の更なる軽減に向け、地域のマンパワーを結集し、総合力で被害を防止する観点から、平成29年度から新たに地域ぐるみの防除・捕獲体制の強化に取り組む。集落全体で作成した対策プランに基づき、防護柵や箱わなの適切な設置・管理や山口型放牧による緩衝帯の設置など、防除と捕獲をセットにした迅速かつ効果的な対策の徹底、集落単位でのリーダー、アドバイザーなど人材の育成、先進事例をリーフレットで紹介するなど

俊也の目！

2 住宅施策の展開

住宅戸数が世帯数を大幅に超え、空き家率が全国平均を上回っている本県の現状を踏まえ、県では今後、中古住宅取得に係る金利の優遇策の実施や、共同住宅の耐震診断への助成などの支援を始めるが、地域経済の活性化に資するため、木材を含む県産品を活用したリフォームを推進する枠組みについて、調査・研究を始める。更に、リフォームにおいて中心的な役割を果たす地域の工務店等の担い手不足を改善するため、設計者や技能者を対象とした研修会を充実させる。

俊也の目！

3 鳥獣被害対策

「やまぐち絶景満喫バス」のより実態を反映したコース見直しにとどまることなく、多様なニーズを持つ観光客や、それに応えていく市町や観光業者が求める、より有効な二次交通アクセスの構築に向けて、地道な研究や体制づくりが一步でも前に進むよう、今後とも提言を重ねてまいります。

質問③ 鳥獣被害対策

1 取組体制づくり

農山村で農林業を営む高齢者にとって、野生鳥獣による作物被害は今後の生活を脅かす重大な問題。猟友会や農林業者の意見を反映した迅速かつ柔軟な対応ができるよう、地域全体で被害対策に取り組む体制整備が何より急務と考えられているが、いかがか。

答弁 河村農林水産部長

鳥獣被害の更なる軽減に向け、地域のマンパワーを結集し、総合力で被害を防止する観点から、平成29年度から新たに地域ぐるみの防除・捕獲体制の強化に取り組む。集落全体で作成した対策プランに基づき、防護柵や箱わなの適切な設置・管理や山口型放牧による緩衝帯の設置など、防除と捕獲をセットにした迅速かつ効果的な対策の徹底、集落単位でのリーダー、アドバイザーなど人材の育成、先進事例をリーフレットで紹介するなど

2 捕獲・防除対策

県では、広域的視点から捕獲・防除のハード対策を進めているが、今後は、現場に即した更なる柔軟かつ適切な対応ができるよう、施策を展開すべき。サル、シカ、イノシシそれぞれの捕獲・防除に向けてのハード対策の充実に、今後どのように取り組むのか。

答弁 河村農林水産部長

鳥獣ごとの特性に応じた対策を実行する観点から、サルについては、大型捕獲柵による大量捕獲が効果的であるため、平成29年度は増設を図る一方、シカについても、群れで行動する特性を踏まえ、大量捕獲に効果的な大型捕獲柵の設置を進める。イノシシについては、メスの成獣を捕獲することが効果的であるため、成獣の大きさに反応する赤外線センサーなどICTを活用した箱わなの設置を支援する。防除対策としては、最も効果的な柵の整備を支援するほか、県で開発したシカ・サル両方に対応可能な防護柵の普及に努める。財源には、国の交付金を活用するほか、県独自の補助制度を創設して、高齢化等に配慮したきめ細かな支援に努める。

俊也の目！

3 住宅施策の展開

本年度から長門市4地先で藻場造成が始まるなど、計画的な整備が進むこととなり。水揚基礎づくりは海中環境改善や漁獲量アップに必ずや反映します。こうした水産インフラの整備に地元業者が活用されるよう、整備の成り行きを注視してまいります。

答弁 村岡知事

山陰道の建設促進については、引き続き全線整備に向けて精力的に取り組む。周辺ネットワークの構築も不可欠であるから、北浦の主要地点と山陰道とのアクセス道の整備を着実に進めているところ。こうした中、山陰道の整備は交通の流れを大きく変えるものであるから、道の駅などの交流拠点施設と人の流れをしっかりと結び付けていくことが重要。その変化について認識を共有した上で、市町が中心となって地域活性化への取組を進め、県としても必要な協力を行う。

俊也の目！

4 山陰道の建設促進と周辺ネットワークの構築

山陰道が供用開始されるのは良いが、従前からある北浦の地域交流拠点「道の駅」が存在価値を失ってはなりません。知事からも、供用開始後の交通の流れの変化について市町と認識を共有し、地域づくりの中心となる市町に対し、必要な協力を行う意思が示されました。地域と県との橋渡しに引き続き全力投球します。